

## 植物防疫基礎講座：フシダニ類の見分け方(3)

## フシダニ科群の概説と属への検索(2)

千葉県農業総合研究センター 上遠野 富士夫

## VII-4 Phyllocoptinae 亜科の概説

体は紡錘形～くさび形。背甲の前縁中央域は前方につき出す。背毛(ds)はあるものとないものがある。後体部の体環数は背面と腹面で異なり、背面の方が腹面より少ない。脚および後体部に生じる通常毛は一部欠くものがある。外部生殖器は後脚からやや離れている。生殖口蓋の肋は2段になることはない。本亜科は多くの属を含み、これまで世界から157属が記録されている(AMRINE et al., 2003)。本邦では、これまでに以下の13属21種が確認されている。

## Phyllocoptinae の日本産の属への検索表

- 1 羽毛爪の主軸は、二股に分岐する……………*Acaphylla*
- 羽毛爪の主軸は、分岐しない……………2
- 2 背甲上に ds がいない……………3
- 背甲上に ds がある……………5
- 3 後体部の背面の体環は一部が側方に大きく出っ張る……………*Phaulacus*
- 後体部の背面の体環は側方に出っ張らない……………4
- 4 後体部の背面に3本のうね状の隆起がある……………*Calacarus*
- 後体部の背面に5本のうね状の隆起がある……………*Paracalacarus*
- 5 後体部の背面の体環は一部が側方に大きくつき出す……………*Tegonotus*
- 後体部の背面の体環は側方につき出さない……………6
- 6 ds は背甲の後縁より前方にあるこぶから生じ、前方または背方に向かって伸びる……………7
- ds は背甲の後縁上またはその近くにあるこぶから生じ、後方に向かって伸びる……………10
- 7 後体部背面の正中部は幅広いU字形の溝になっている……………*Phyllocoptuta*
- 後体部背面は正中線に沿ってうね状の隆起があるが、不明瞭なものもある……………8
- 8 後体部背面の正中線に沿って縦に走る隆起は不明瞭……………*Phyllocoptes*
- 後体部背面の正中線に沿って縦に走る明瞭なうね

がある……………9

- 9 後体部背面の正中線に沿う縦のうねは、その側方を走るうねよりも短い……………*Calepitrimerus*
- 後体部背面の正中線に沿う縦のうねは、その側方を走るうねとほぼ同長……………*Epitimerus*
- 10 ds は太く短く、とげ状……………*Spinacus*
- ds はとげ状ではない……………11
- 11 後体部背面の体環は幅広いが、第3腹毛以降急に狭くなる……………*Anthocoptes*
- 後体部背面の体環は幅広く、尾端に向かって徐々に狭くなる……………12
- 12 背甲の前縁中央部は前方に大きく突出し、その先端に1対のとげがある……………*Aculus*
- 背甲の前縁中央部は前方に大きく突出し、その先端は細くとがる……………*Aculops*

VII-4-1 *Acaphylla* 属

体は紡錘形～くさび形。背甲の前縁の中央部は前方につき出す。ds は背甲の後縁より前方にあるこぶから生じ、背方ないし前方に向かって伸びる。後体部背面の正中部はうね状に盛り上がる。外部生殖器は後脚の基節からやや離れている。前脚の第1基節毛、後脚の膝節毛および後体部の付属毛を欠く。羽毛爪の軸は二股に分岐する。本邦では2種が確認されている。

(30) ツバキサビダニ *Acaphylla steinwedeni* KEIFER

雌：紡錘形～くさび形で橙～黄橙色。チャノナガサビダニに酷似するが、背甲の隣正中条から背甲の側面に伸びる明瞭な横条がないことで容易に区別できる。国内では本州に分布し、サザンカ、ツバキの葉に寄生し、褐色のさび症状を引き起こす(上遠野, 1993)。

(31) チャノナガサビダニ *A. theavagrans* KADONO (図-18)

雌：紡錘形～くさび形で橙～黄橙色。背甲の前縁の中央部は前方につき出す。背甲の正中条は不鮮明。隣正中条は背甲の前縁から後方に伸び、背甲の後縁のやや前方で互いに合流する。亜正中条は隣正中条の前1/3から背甲の側面に伸びる横条から発し、dsのこぶまで伸びる。亜正中条の外方にも曲線状の条線がある。dsは背甲の後縁の前方にあるこぶから生じ、背方に伸びる。dsの長さはこぶの起点間の間隔よりはるかに短い。羽

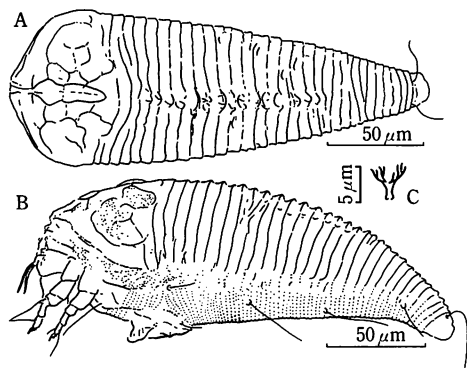


図-18 チャノナガサビダニ (♀) (KADONO, 1992)  
A: 背面, B: 側面, C: 羽毛爪.

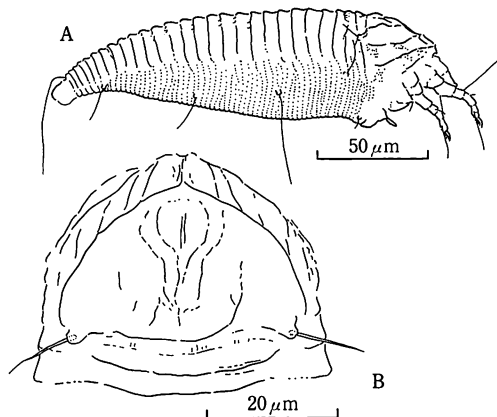


図-19 トマトサビダニ (♀) (上遠野・根本, 1993)  
A: 側面, B: 背甲.

毛爪の軸は基部から二股に分岐し、それぞれの軸の側枝は3裂。体長は0.16 mm内外。後体部の体環の数は背面が30~33、腹面が69~79。国内では本州に分布し、チャの葉に寄生。若葉が著しく加害されると全体に黄化し、やがて褐変して早期落葉する。日本のチャに寄生するチャノナガサビダニは *Acaphylla theae* (WATT, 1903) に類似するが、*A. theae* は後体部の背面の正中線沿いに丸い隆起が見られ、本種には見られないことから両者を区別できる (KADONO, 1992)。

#### VII-4-2 *Aculops* 属

体は紡錘形~くさび形。背甲の前縁中央は前方につき出し、その先端は細くとがる。dsは背甲の後縁にある筒状のこぶから生じ、後方に向かって伸びる。後体部の背面の正中部はややうね状に盛り上がる。後体部の背面の体環は腹面より幅広い。外部生殖器は後脚の基節からやや離れている。脚および後体部の剛毛はすべてある。羽毛爪の軸は1本。本邦では4種が確認されている。

##### (32) ヌルデフシダニ *Aculops chinonei* HUANG

雌：紡錘形で、やや緑色を帯びた淡黄色。背甲は三角形。正中条は背甲の後ろ1/3にあり、隣正中条は背甲の前縁から後縁まで走る。亜正中条は背甲の前縁に沿って走る。dsは背甲の後縁上のこぶから生じ、後方に伸びる。dsの長さはその起点間の間隔よりやや短い。羽毛爪の側枝は4裂。体長は0.19 mm内外。後体部の体環の数は背面が31~44、腹面が68~71。国内では本州に分布。ヌルデの葉裏に緑白色の毛せんを発生し、その部分がへこんで表面に丸く突出する (HUANG, 1971)。

##### (33) トマトサビダニ *A. lycopersici* (MASSEE) (図-19)

雌：くさび形で黄褐色。背甲の前縁の中央部は前方につき出す。背甲の先端付近に短い正中条がある。隣正中

条は背甲の前縁から後縁まで伸びるが、背甲の中央で互いに接近して弧を描く。亜正中条は背甲の後半部にある。背甲の前縁は急に落ち込み、数本の条線によって縄文様を装う。dsは背甲の後縁のやや前方にあるこぶから生じ、斜め後方に伸びる。dsの長さはこぶの起点間の間隔より短い。後体部の体環の数は背面が27、腹面が60~65。羽毛爪の側枝は4裂。体長は0.18 mm内外。国内では本州、九州、沖縄に分布し、トマトに寄生。その他ナス、ジャガイモ、トウガラシ、ペチュニア等のナス科植物にも寄生するという。*Aculops destructor* (KEIFER) は本種の同物異名。被害症状は、下位葉の裏面が銀色化して湾曲する。寄生された葉はさび症状を呈し、果実ではさめ肌状になる。多寄生された株は、下位の葉から枯れ上がり落葉する (根本, 1991)。

##### (34) ヤナギフシダニ *A. niphocladae* KEIFER

雌：紡錘形で橙色。背甲の前縁の中央部には先が丸い突出部がある。背甲の表面には列状に並んだ顆粒状のこぶや短い条線があり、網目模様を呈する。dsは背甲の後縁上にある微細なこぶから生じ、後方に伸びる。dsの長さはその起点間の間隔より長い。羽毛爪の側枝は4裂。体長は0.2 mm内外。後体部の体環の数は背面が63~65、腹面が67~69。国内では本州に分布し、シダレヤナギに寄生。葉裏に口ひげ状のこぶを発生し、その反対側に小孔が開く。開口部およびこぶの内側は毛せんが発達する (HUANG, 1971)。

##### (35) ミカンサビダニ *A. pelekassi* (KEIFER)

雌：紡錘形~くさび形で淡黄~黄白色。背甲の前縁の中央部は前方につき出す。正中条は背甲の後半部があり、隣正中条は背甲の前縁の突出部から後縁のやや前方まで伸びる。背甲の前縁から後方にかけて顕著な条線が

あり、網目模様を装う。ds は背甲の後縁のやや前方にあるこぶから生じ、斜め後方に伸びる。ds の長さはこぶの上の起点間の間隔より短い。羽毛爪の側枝は 4 裂。体長は 0.18 mm 内外。後体部の体環の数は背面が 36 ~ 46、腹面が 52 ~ 58。国内では本州、四国、九州に分布し、温州ミカンなどのカンキツ類に寄生。新葉が加害されると変形したり、褐色のしわが生じる。被害果の果皮は暗褐色を呈し、象皮状またはサメ肌となる (江原, 1966; HUANG, 1971)。

#### VII-4-3 *Aculus* 属

体は紡錘形~くさび形。背甲の前縁の中央部は前方につき出し、その先端に 1 対のとげがある。ds は背甲の後縁にあるこぶから生じ、後方に向かって伸びる。後体部の背面は正中部に沿ってうね状にやや盛り上がる。後体部の背面の体環は腹面より幅広い。外部生殖器は後脚の基節からやや離れている。脚および後体部の剛毛はすべてある。羽毛爪の軸は 1 本。本邦では 3 種が確認されている。

(36) モモサビダニ *Aculus fockeui* (NALEPA et TROUSSART) (図-20, A, B)

雌：紡錘形~くさび形で橙黄~橙色。背甲の正中条は不鮮明。隣正中条は背甲の前縁中央部の突出部から背甲の前 1/3 を横に走る条線に向かって斜め背方に伸び、それから背甲の後縁付近まで達する。亜正中条は不鮮明。ds は背甲の後縁のやや前方にあるこぶから生じ、後方に伸びる。ds はその起点の間隔よりかなり短い。羽毛爪の側枝は 4 裂。体長は 0.19 mm 内外。後体部の体環の数は背面が 27 ~ 34、腹面が 58 ~ 64。国内では北海道、本州、四国に分布し、モモ、ネクタリンのほか

多くの *Prunus* 属の植物に寄生。加害された葉は表面が銀白色になる (KADONO, 1985)。

(37) イボタサビダニ *A. ligustri* (KEIFER)

雌：くさび形で黄褐色。背甲の正中条は背甲の後ろ 1/2 にあり、その後端は矢印状の条線模様を呈する。隣正中条は背甲の前縁から後縁まで伸びる。第 1 亜正中条、第 2 亜正中条もある。ds は背甲の後縁のやや前方にある微細なこぶから生じ、後方に伸びる。ds の長さはその起点間の間隔より短い。羽毛爪の側枝は 4 裂。体長は 0.19 mm 内外。後体部の体環の数は背面が 35 ~ 37、腹面が 65 ~ 70。国内では本州に分布し、オオバボダイジュの葉に寄生してさび症状を引き起こす (根本, 1991)。

(38) リンゴサビダニ *A. schlechtendali* (NALEPA) (図-20, C, D)

雌：紡錘形で淡黄~橙黄色。背甲には多くの小さなこぶと短い条線があり、両者の一部が並んで短い正中条と亜正中条および短い隣正中条を形成する。ds は背甲の後縁のやや前方にあるこぶから生じ、斜め後方に伸びる。ds はこぶの起点間の間隔よりやや短い。羽毛爪の側枝は 4 裂。体長は 0.2 mm 内外。後体部の体環の数は背面が 30 ~ 35、腹面が 61 ~ 75。国内では本州に分布。リンゴおよび *Malus* 属の植物に寄生。著しく加害された葉は褐変して早期落下する (KADONO, 1985)。

#### VII-4-4 *Anthocoptes* 属

体は紡錘形。背甲の前縁の中央部は前方につき出し、その縁はなめらか。ds は背甲の後縁にあるこぶから生じ、後方に向かって伸びる。後体部の背面は正中線に沿ってうね状にやや盛り上がる。後体部の背面の体環は幅

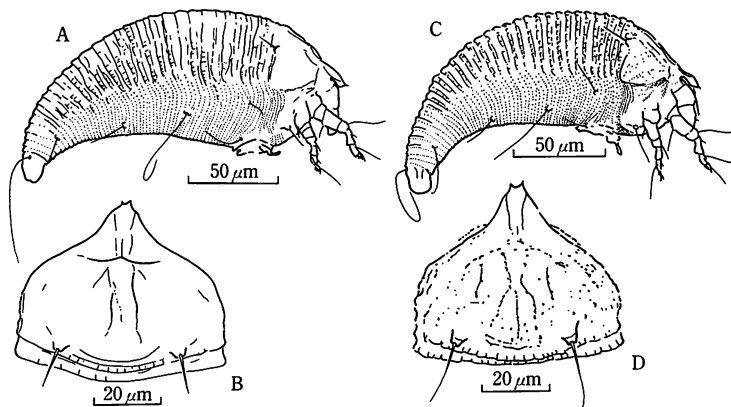


図-20 モモサビダニ (A, B) とリンゴサビダニ (C, D) の第 1 ♀ (KADONO, 1985)

A, C: 側面, B, D: 背甲.

広いが、第3腹毛付近から尾端まで狭い。外部生殖器は後脚の基節からやや離れている。脚および後体部の剛毛はすべてある。羽毛爪の軸は1本。本邦では1種が報告されている。

(39) アメリカニレサビダニ *Anthocoptes punctidorsa* KEIFER

雌：紡錘形で淡褐色。背甲の表面は縦横に走る条によって網目模様を呈する。dsは背甲後縁上の微細なこぶから生じ、後方に伸びる。dsの長さはその起点間の間隔よりはるかに長い。羽毛爪の側枝は2裂。体長は0.14 mm内外。後体部の体環の数は背面が15~18、腹面が47~49。国内では北海道に分布し、ハルニレの葉裏に寄生する (HUANG, 1965)。

VII-4-5 *Calacarus* 属

体は紡錘形。口吻は極めて大きい。背甲の前縁の中央部は前方につき出す。dsおよびdsを生じるこぶはない。後体部の体環の数は背面が腹面よりいくぶん少なく、背面の正中部と側部はうね状に盛り上がり、各体環から白いワックスを出す。外部生殖器は後脚の基節からやや離れている。後脚の膝節毛を欠く。羽毛爪の軸は1本。本邦では1種が確認されている。

(40) チャノサビダニ *Calacarus carinatus* (GREEN) (図-21)

雌：紡錘形で赤紫~暗紫色。背甲の前縁の中央部は前方につき出す。背甲には前縁に沿って細胞状の条線模様がある。正中条は背甲の前縁と後縁付近にわずかにある。隣正中条は背甲の前縁から後縁まで波状に走り、これと正中条と連結する横条によって背甲の中央域に八角形の条線模様を描く。背甲の後縁のやや前方に小さなこぶがあるが、dsはない。羽毛爪の側枝は5裂。体長は

0.2 mm内外。後体部の体環の数は背面が67~69、腹面が74~78。後体部の背面の正中部と亜正中部はうね状に盛り上がる。各うねから白ロウを分泌させており、3本の白い線として見える。背甲の条線からも白ロウを分泌させている。国内では本州、四国、九州に分布し、チャの葉に寄生。古葉に多い。著しく加害されると葉の表面は暗緑色~暗褐色になり、多発生した場合には早期落葉する (HUANG, 1971)。

VII-4-6 *Calepitrimerus* 属

体は紡錘形。背甲の前縁の中央部は前方につき出す。dsは背甲後縁の前方にあるこぶから生じ、前方または背方に向かって伸びる。後体部の背面には縦に走る3本のうね状の隆起があり、正中線に沿って走るうね状の隆起は亜正中線のうね状隆起の長さより短い。外部生殖器は後脚の基節からやや離れている。後体部の付属毛を除くすべての剛毛をもつ。羽毛爪の軸は1本。本邦では1種が確認されている。

(41) ブドウサビダニ *Calepitrimerus vitis* (NALEPA) (図-22)

雌：紡錘形で淡橙黄色。背甲の前縁部の中央は前方につき出す。正中条はない。隣正中条は背甲の前縁中央部にある突出部から後方に伸び、dsの近くで二股に分岐する。dsは背甲の後縁の前方に位置するこぶから生じ、背方に伸びる。dsは起点間の間隔より短い。羽毛爪の側枝は4裂。体長は0.15 mm内外。後体部の背面の体環は、正中部と側部が盛り上がり、前者は第3腹毛の少し前の体環まで、後者は尾端まで連なって、3本のうねを形成する。後体部の体環の数は背面が48~51、腹面が64~65。国内では本州に分布し、ブドウに寄生。葉表の葉脈の部分に多く寄生し、薄墨色のさび症状を引き

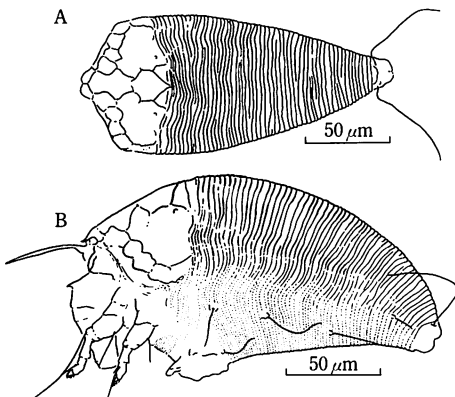


図-21 チャノサビダニ (♀) (上遠野, 1995)  
A: 背面, B: 側面.

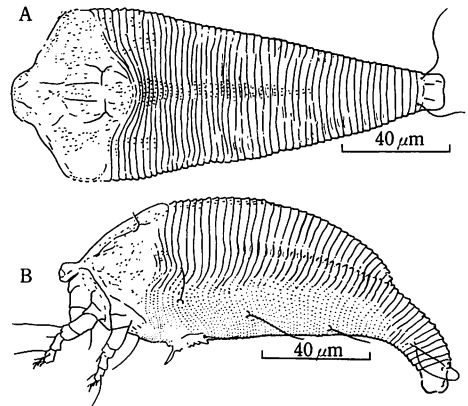


図-22 ブドウサビダニ (第1♀) (上遠野, 1995)  
A: 背面, B: 側面.

起こす。数日後には葉の表面が黒変し、すす葉症状を呈する。被害が進むと茶褐色の葉枯れ症状となり落葉する(長田・矢野, 1961; 江原, 1966)。

#### VII-4-7 *Epitrimerus* 属

体は紡錘形でやや扁平。背甲の前縁の中央部は前方につき出す。ds は背甲後縁の前方にあるこぶから生じ、前方または背方に向かって伸びる。後体部の亜背部はやや凹み、正中部と側部がうね状に隆起する。正中部のうねは側部のうねの長さとはほぼ同長。外部生殖器は後脚の基節からやや離れている。脚および後体部の剛毛はすべてある。羽毛爪の軸は1本。本邦では1種が確認されている。

#### (42) ナシサビダニ *Epitrimerus pyri* (NALEPA)

雌：紡錘形で淡黄色。背甲は三角形。ds はその起点間の間隔より短い。羽毛爪の側枝は4列。体長は0.14 mm 内外。後体部の体環の数は背面が48~50, 腹面が54~55で各体環上には微細なこぶがない。国内では本州に分布し、ナシの葉に寄生。さび症状を引き起こす。セイヨウナシでは果実にも寄生する(HUANG, 1971)。

#### VII-4-8 *Paracalacarus* 属

体は紡錘形。背甲の前縁の中央部は前方につき出す。ds および ds を生じるこぶはない。後体部の背面に5本のうねがある。亜背部のうねは背甲の後縁から尾端付近まで走り、U字形の溝を形成するが、その正中部には背甲の後縁から伸びるうねがある。亜背部の側方にも背甲の後縁から伸びる短いうねがある。外部生殖器は後脚の基節からやや離れている。前脚の腿節毛を欠く。羽毛爪の軸は1本。本邦では1種が確認されている。

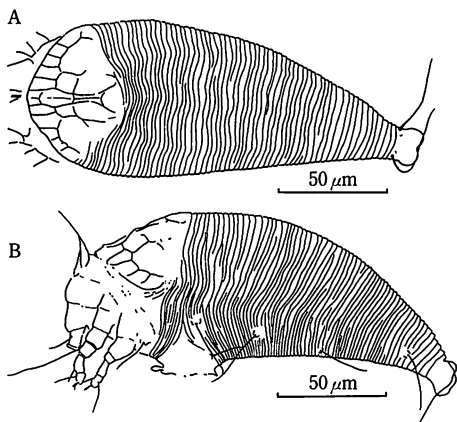


図-23 マキサビダニ(♀)(上遠野, 1995)  
A: 背面, B: 側面。

#### (43) マキサビダニ *Paracalacarus podocarpi* KEIFER (図-23)

雌：紡錘形で黄褐色。背甲の前縁の中央部は前方につき出す。正中条は背甲の前縁と後縁1/2に認められ、その条線の両端は2分岐して隣正中条に達する。隣正中条は背甲の前縁から後縁まで伸びる。隣正中条の外方および背甲前縁には条線が縦横に走り、網目模様を装う。ds および ds を生じるこぶはない。羽毛爪の側枝は4裂。体長は0.18 mm 内外。後体部の体環の数は背面が約60, 腹面が約72。後体部の背面の体環は正中部と亜正中部が盛り上がり、その先端から白ロウが分泌される。このため生きたダニを背面から見ると、3本の白い線として見える。背甲の条線からも白ロウを分泌している。国内では本州、沖縄に分布し、イヌマキの葉裏に寄生する(根本, 1991)。

#### VII-4-9 *Phaulacus* 属

体は紡錘形~くさび形で扁平。背甲の前縁の中央部は前方に大きくつき出す。ds および ds を生じるこぶはない。後体部の背面の体環は幅広く、前から第1, 2, 4, 8, 10, 12番目のものは側方に大きくつき出す。外部生殖器は後脚の基節からやや離れている。後脚の膝節毛と後体部の付属毛を欠く。羽毛爪の軸は1本。本邦では2種が確認されている。

#### (44) ノコギリクリフシダニ *Phaulacus acutilobus* KADONO (図-24)

雌：扁平かつ紡錘形~くさび形で透明な白色。背甲の前縁の中央部は前方につき出す。背甲全体に顆粒状のこぶが見られる。条線模様はない。ds および ds を生じるこぶはない。羽毛爪の側枝は5裂。体長は0.17 mm 内外。後体部の体環の数は背面が20~22, 腹面が66~73で、背面の第1, 2, 4, 6, 8, 10, 12番目の体環は

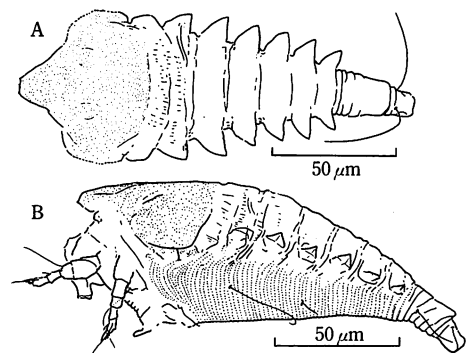


図-24 ノコギリクリフシダニ(♀)(KADONO, 1988)  
A: 背面, B: 側面。

側方に大きくつき出し、その先端は鋭角状。本州に分布し、クリの葉裏に寄生する (KADONO, 1988)。

(45) ヒラタクリフシダニ *P. obtusilobus* KADONO

雌：扁平かつ紡錘形～くさび形で透明な白色。背甲の前縁の中央部は前方につき出す。背甲の側面に顆粒状のこぶが散在するが、条線模様はない。ds および ds を生じるこぶはない。羽毛爪の側枝は5裂。体長は0.17 mm 内外。後体部の体環の数は背面が20～22、腹面が59～70で、背面の第1, 2, 4, 6, 8, 10, 12番目の体環は側方に大きく突出するが、その先端は丸い。本州でクリの葉裏に寄生する (KADONO, 1988)。

VII-4-10 *Phyllocoptes* 属

体は紡錘形～くさび形。背甲の前縁の中央部は前方につき出す。ds は背甲の後縁の前方にあるこぶから生じ、前方または背方に向かって伸びるが、後縁上にある場合は前方に伸びる。後体部の背面には、溝やうね状の隆起がなく一様に丸い。外部生殖器は後脚の基節からやや離れている。脚および後体部の剛毛はすべてある。羽毛爪の軸は1本。本邦では2種が確認されている。

(46) キイチゴハモグリダニ *Phyllocoptes carilubi* KEIFER

雌：紡錘形で黄褐色。背甲は三角形で前縁の中央部が前方につき出す。正中条は背甲の後縁付近にあり、その前端は二股に分岐して隣正中条に連結する。隣正中条は背甲の前縁から後縁まで伸びる。ds は背甲の後縁より前方にあるこぶから生じ、背方に伸びる。ds の長さはその起点間の間隔より短い。羽毛爪の側枝は5裂。体

長は0.18 mm 内外。後体部の体環の数は背面が48～54、腹面が70～74。国内では本州に分布し、ナガバモミジイチゴの葉の両面に円形または不正形の凹凸のあるこぶを発生させる。こぶは毛せんでおおわれる (HUANG, 1971)。

(47) ナシハヤケサビダニ *P. pyrivagrans* KADONO (図-25)

雌：紡錘形～くさび形でクリーム～橙黄色。背甲の前縁の中央部は前方につき出す。正中条は背甲の後ろ2/3にあり、隣正中条は背甲の前縁の突出部から後縁まで伸びる。垂正中条は背甲の前縁の突出部から ds の生じるこぶまで伸びる。また、これらの条線を連絡する2本の横条があり、これによって背甲は網目模様を装う。ds は背甲の後縁のやや前方にあるこぶから生じ、背方に伸びる。ds の長さはこぶの起点間の間隔とほぼ同長。羽毛爪の側枝は4裂。体長は0.19 mm 内外。後体部の体環の数は背面が63～68、腹面が75～86。本州に分布し、ナシ (品種：長十郎) の葉裏に寄生して葉焼け症状を起こす (KADONO, 1985)。

VII-4-11 *Phyllocoptura* 属

体は紡錘形。背甲の前縁中央は前方につき出す。ds は背甲の後縁のかなり前方にあるこぶから生じ、前方または背方に向かって伸びる。後体部の背面は幅広いU字状の溝が縦に走る。外部生殖器は後脚の基節からやや離れている。脚および後体部の剛毛はすべてある。羽毛爪の軸は1本。本邦から1種が確認されている。

(48) リュウキュウミカンサビダニ *Phyllocoptura citri* SOLIMANN et ABOU-AWAD (図-26)

雌：紡錘形で淡黄～橙黄色。背甲の前縁の中央部は前

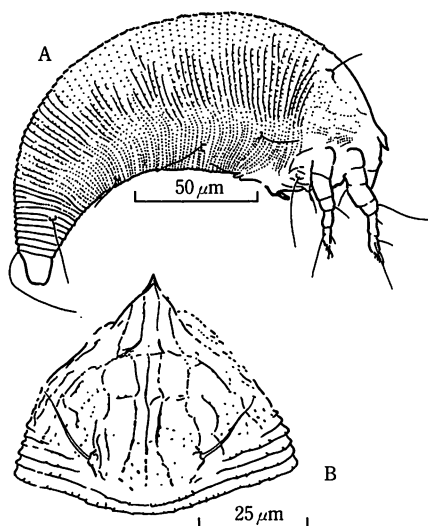


図-25 ナシハヤケサビダニ (♀) (KADONO, 1985)

A: 側面, B: 背甲。

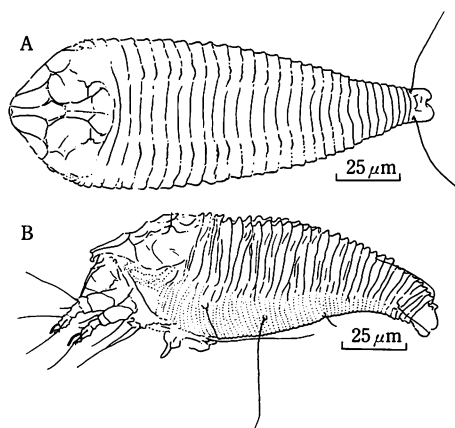


図-26 リュウキュウミカンサビダニ (♀) (上遠野・上原, 1993)

A: 背面, B: 側面。

方につき出す。正中条は背甲の後半部にある。正中条の先端および末端のやや前方には、隣正中条に伸びる短い条線がある。隣正中条は背甲前縁の突出部から後縁まで波状に走り、後方に向かうにつれて互いに離れる。背甲の前1/3には隣正中条から側方に向かう横条がある。dsは背甲の後縁より前方にあるこぶから生じ、背方に伸びる。dsの長さはこぶの起点間の間隔より短い。羽毛爪の側枝は5裂。体長は0.16 mm内外。後体部の背面は正中条に沿ってU字形に幅広く凹み、溝を形成する。後体部の体環の数は背面が29～33、腹面が60～72。生殖毛と第1腹毛は極めて長く、生殖毛はその起点間の約3倍、第1腹毛は約2倍。国内では沖縄、奄美大島、屋久島、種子島に分布し、タンカン、清見などの中晩柑類やシークワーシャー、オートー、カーブチなどの在来のカンキツ類に寄生して、果実に著しいさび症状を引き起こす。温州ミカンにも寄生する(上遠野・上原, 1993)。

#### VII-4-12 *Spinacus* 属

体は紡錘形。背甲の前縁の中央部は前方に大きくつき出す。dsは背甲の後縁にあるこぶから生じ、太く短くとげ状を呈し、後方に向かって伸びる。後体部の背面は、側面から見ると弓状に湾曲するが、第3腹毛付近で下方に折れ曲がる。外部生殖器は後脚の基節からやや離れている。前脚の脛節毛を欠く。羽毛爪の軸は1本。本邦では1種が確認されている。

(49) マンゴーケプトサビダニ *Spinacus pagonis* KEIFER (図-27)

雌：紡錘形でローズグレー色。背甲の前縁の中央部は前方に大きくつき出す。背甲のほぼ中央に台形の条線模様がある。背甲の後縁のやや前方にこぶがあり、そこから太くて短くとげ状のdsが生じる。羽毛爪の側枝は6裂。体長は0.14 mm内外。後体部の体環の数は背面が約28、腹面が約60。後体部の背面の正中部と側部から白色ロウ物質を分泌している。このロウ物質は背甲からも分泌される。国内では沖縄に分布し、主としてマンゴ

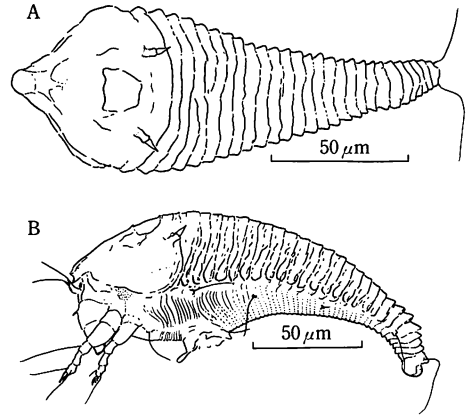


図-27 マンゴーケプトサビダニ(♀)(上遠野, 1994)  
A: 背面, B: 側面。

一の葉裏に寄生し葉の表面を加害する。葉の表面を褐色に変色させる(上遠野, 1994)。

#### VII-4-13 *Tegonotus* 属

体は紡錘形。背甲の前縁の中央部は前方につき出す。dsは背甲の後縁に近いところにあるこぶから生じ、背方または側方に向かって伸びる。後体部の背面の正中部はうね状に隆起し、後方に向かって徐々に消失する。外部生殖器は後脚の基節からやや離れている。脚および後体部の剛毛はすべてある。羽毛爪の軸は1本。本邦では1種が確認されている。

(50) エルムサビダニ *Tegonotus ulmi* (FARKAS)

雌：扁平な紡錘形で淡黄～淡黄褐色。背甲の前縁の中央部は前方につき出す。背甲の表面はなめらか。dsは背甲の後縁上にある微細なこぶから生じ、後方に伸びる。dsはその起点間の間隔よりはるかに短い。羽毛爪の側枝は4裂。体長は0.15 mm内外。後体部の体環数は背面が18で、各環節は側方に突出する。腹面の体環数は62～64。国内では本州に分布し、ハルニレに寄生する(HUANG, 1965)。

(新しく登録された農薬 18 ページからの続き)

#### ●ジメタメトリン・プレチラクロール粒剤

21723: ST バレージ粒剤(住化武田農薬) 2006/6/7

ジメタメトリン: 0.10%, プレチラクロール: 2.0%

移植水稲: 水田一年生雑草及びマツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ, ミズガヤツリ, アオミドロ・藻類による表層はく離

#### ●オキサジクロメホン・クロメプロップ・シハロホップブチル・ベンスルフロメチル粒剤

21725: カルテット1キロ粒剤 51(北興化学工業) 2006/6/21

オキサジクロメホン: 0.60%, クロメプロップ: 3.5%

シハロホップブチル: 1.5%, ベンスルフロメチル: 0.51%

移植水稲: 水田一年生雑草及びマツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガヤツリ, ヒルムシロ, セリ(北陸を除く), アオミドロ・藻類による表層はく離